

ジベレリン1回処理が「クイーンニーナ」の果実品質に及ぼす影響

ジベレリン(GA)1回処理では、慣行のGA2回処理に比べて、果皮色が優れ、糖度が高い

背景・目的

- ・ブドウ「クイーンニーナ」は温暖な本県でも赤色に着色する期待の品種であり、産地への導入が進行
- ・慣行ではGAの2回処理が行われているが、成木になると大粒になりやすく、着色が不良となる事例あり
- ・果実の着色遅延を抑制する技術が必要

成果の内容

GA1回処理ではGA2回処理に比べて、果皮色色票値および糖度が高い

1. GA2回処理の弊害

- ・成木では、果房や果粒が肥大しすぎる、収量は多いものの着色不良となる。
- ・成木では、着色や熟期の遅延が発生しやすい

2. GA1回処理の効果

満開0～3日後にホルククロルフェニユロン(CPPU)5ppmを加用または満開3～5日後にCPPU10ppmを加用するGA1回処理では、GA2回処理に比べて着色や糖度が優れる

表 GA処理と果実品質、収量

試験区	果房重 (g)	糖度 (Brix)	酒石酸 (%)	換算収量 (kg/10a)
1回C5	580	20.5	0.35	1,740
1回C10	592	19.8	0.35	1,776
2回慣行	747	18.0	0.42	2,241

注)平成29年8月2日調査(薩摩川内市現地)

1回C5: 満開0～3日後にGA25ppm(CPPU5ppm加用)の1回処理

1回C10: 満開3～5日後にGA25ppm(CPPU10ppm加用)の1回処理

2回慣行: 満開0～3日後にGA25ppm(CPPU5ppm加用)、満開10日～15日後にGA25ppmの2回処理

CPPUは着粒安定・果粒肥大促進剤

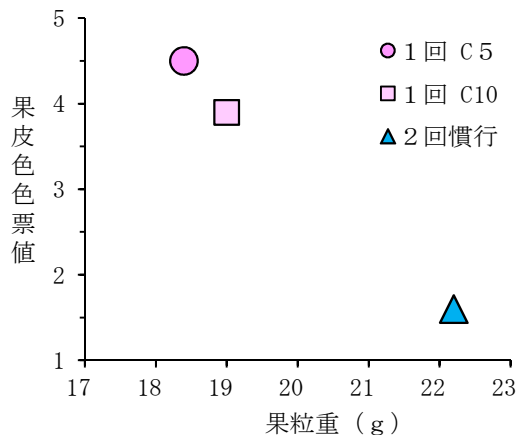
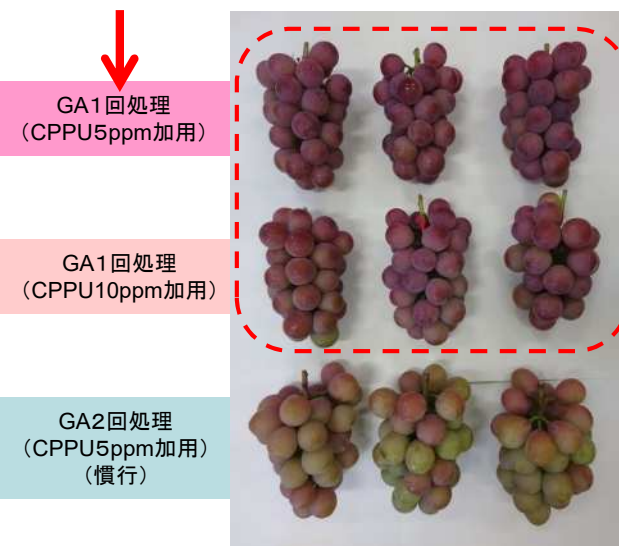


図 果粒重と果皮色の関係 (平成29年, 現地)

GA1回処理により、

- ・適正な大きさの果房・果粒で、着色向上
- ・糖度の高い果房が得られ、商品化率向上 (CPPU5ppm加用のGA1回処理で高まる傾向)
- ・1回分のGA処理労働時間が削減可能

導入メリット



商品性向上

期待される効果

- ・「クイーンニーナ」の品質安定化による生産性・収益性の向上

普及対象・範囲
ブドウ「クイーンニーナ」生産者